


 TOPICS
2

トピックス…②

1年後に迫ったワールド・デーリィ・サミット横浜

「世界の乳の祭典」と言われるワールド・デーリィ・サミットが2013年10月28日からの5日間、横浜市みなとみらい地区で開催される。国内の酪農家を始め多くの酪農乳業関係者が参加し、世界各国・地域の酪農乳業関係者との交流を深めることを、主催者である国際酪農連盟日本国内委員会が呼び掛けている。

メインテーマは“Rediscovering Milk”

わが国は1956年に国際酪農連盟（IDF）に加盟して以来、過去2回（1972年：東京、1991年：東京）にわたりIDFワールド・デーリィ・サミットを開催した実績がある。わが国がホスト国となり開催する2013年横浜サミットでは、“Rediscovering Milk”（乳の再認識－母なる大地からの贈り物）をメインテーマに掲げ、もう一度、乳の本質的価値を見つめ直し、酪農産業が直面している問題の解決糸口を世界の人々と共有することを目指している。

とくに、10月30日午後に開催される「酪農政策・経済特別講演会」では、わが国の酪農家や酪農団体の代表による講演も行われる。この講演会は、世界各国・地域の酪農乳業の基本的な動向や特徴について理解を深めるとともに、主要な酪農国・地域の酪農乳業政策の変化などについて紹介することを目的としている。

世界の酪農乳業は、酪農製品の輸出国、輸入国、酪農の先進国、新興国などでさまざまな展開を遂げ、牛乳・乳製品市場の発展は量的にも質的にも異なっており、さらにその変化の速さの違いは酪農乳業の展開に大きな差異をもたらしている。そこで、世界各国・地域の酪農・乳業が直面している多様な課題について共通の理解を得るために活発な議論が期待されている。これらの課題は多様な様相を呈しているものの、基本的には、それぞれの国・地域における酪農乳業が消費者や社会などにどのような役割を担っていけるかという基本的な問題と係わっている。

酪農に期待されるさまざま役割

酪農の発展は、直接的に酪農生産や乳業の経済的な基盤を確保すると同時に、生産資材の供

給や牛乳・乳製品の流通・販売といったミルクチェーンを構成する事業者の発展を促し、多くの雇用の場を提供している。牛乳・乳製品は食生活に取り入れられてきた歴史や時期などによって、それぞれの国・地域の食文化に影響を与え、重要な食品になっている。とくに、酪農は子どもたちや高齢者の健康増進に寄与しており、学校給食の中で牛乳・乳製品は重要な位置を占めている。

また、酪農生産は飼料生産とも深く結びついており、農地・草地の維持、景観を含めた農村の生活環境を形成している。さらに、乳牛という動物の出産に支えられた生命産業である酪農は、広く教育的な機能を持っていることも知られている。そこで経済・地域発展・栄養・文化などの視点から、酪農・乳業の価値と役割を再発見するための論点整理を行うとともに、これまでの活動や成果を紹介することになっている。

このような講演内容を踏まえて、酪農産業の価値の再発見について座長が論点整理とともに問題提起を行い、パネルディスカッションを行う。酪農産業の価値や役割を再発見するための取り組みや多様な視点からの酪農産業の価値・役割のとらえ方について意見交換を行うとともに、今後、酪農産業が担うべき役割について、酪農生産現場の視点から検討する。

さらに、同日の夕方には、世界の酪農家が意見交換する場として、「酪農家が集う会食」の開催も予定されている。酪農の価値を再発見するための議論は、厳しい生産環境に置かれている各国・地域の酪農生産者に、将来の酪農の方向性を示唆し、新たな挑戦への力を与えることにつながることを期待される。